

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101554
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	甲府ケアセンターそよ風
所在地	〒 400-0049山梨県甲府市富竹3-3-5 電話番号 055-236-6266

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】平成20年7月21日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	15人	常勤	12人	非常勤	3人	常勤換算	13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 0 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	31,170 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 180,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1300 円			

(4) 利用者の概要 平成20年7月21日 現在

利用者人数	14 人	男性	3 人	女性	11 人
要介護1	1 人	要介護2	4 人		
要介護3	5 人	要介護4	3 人		
要介護5	1 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竜王リハビリテーション病院、樋口内科、若尾歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年8月15日

近くにスーパーや家電量販店がある市街地に位置している。全国に事業展開する法人の2ユニットのグループホームで、一階でデイサービスを運営する併設施設である。管理者は内外の研修で得た経験を通じ、常に問題意識を持ち支援の向上に努めている。運営推進会議を活かし、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。併設のデイサービスと2ユニット合同のイベントを計画し、生活に変化を持たせる工夫がされている。職員は利用者のペースに合わせ穏やかでゆったりとした支援を行っており、利用者の表情も明るい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で、近隣住民との付き合いの点で改善を指摘されたことを受け、運営推進会議を通してグループホームの内容を知ってもらい、散歩の途中での声かけ、しめ縄飾り及び河川清掃など可能な限り参加するよう努力している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、管理者とフロア長で取り組んだ。項目によってフロア会議の議題にした。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 包括支援センターの介護支援専門員、民生児童委員、市担当職員、家族会、センター職員、ホーム職員の構成で二か月に一回開催されている。ホームの年間行事や事業報告、食中毒対策、災害対策なども議題とした話し合いがされ会議録として残されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年二回の家族会議や運営推進会議で家族から苦情や要望を聞くことが出来、それを運営や支援に生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に入会し、広報などで得る情報を基に参加できる行事には積極的に出るようにしている。また地域の保育園からの訪問や、ホームのイベントへ近隣住民のボランティア参加も得られるようになり徐々に地域との連携が取れるようになっていく。

2. 調査報告書

事業所名：甲府ケアセンターそよ風

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者のため 家族のため 明るく元気に楽しく」という法人の理念を各ユニットのリビングとスタッフルームに分かりやすく掲げているが、ホーム独自の理念作りはされていない。	○	ホーム独自の地域の中で暮らしていくための理念作りが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	フロア会議を実施するたびに理念に基づいた支援をするように話し合い、全職員の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、届けられた広報の情報により河川清掃、しめ縄づくりなど参加できる行事には参加している。また地域からは保育園児の訪問や、ホームのイベントへの住民のボランティア訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者とフロア長で取り組み、内容によってはフロア会議の議案にした。前回の評価で地域との付き合いの点を指摘されたので、全職員の会議で話し合い、自治会に入会したり、近隣住民との交流を心がけている。	○	自己評価への取り組みについては全職員での取り組みが望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター、地区民生委員、市職員、家族会、センター職員、グループホーム職員のメンバーで二か月に一度、食中毒、災害対策、年間行事計画、事業報告等を議題とし話し合い会議録として残している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課の職員がメンバーとなっているが、今のところ出席はされていない。市との情報交換は主に副センター長とケアマネージャーが行政機関に出向いて行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの利用者の様子やイベントの様子の写真を載せた「そよ風便り」と利用者一人ひとりの様子を記した「お手紙」を請求書と一緒にして、一か月に一度送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族会があり、年に二回程度家族会が開催されている。運営推進会議、家族会でホームへの苦情や要望意見などが得られる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービス、グループホーム間の職員の異動は、新旧の職員が重複する期間を設け、徐々に利用者になれる体制を作っている。退職する職員がいる場合は、利用者にとりげなく伝える配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修としてデイサービスとの合同勉強会や法人のブロック研修会に定期的に参加するほか、市役所、社会福祉協議会、グループホーム協会の外部研修に参加している。グループホーム内では一か月程度の新任者トレーニングを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。また、実践者やリーダー研修に参加したり、他グループホームへ出かけたり、他グループホームの研修の受け入れを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人と家族にグループホームの見学に来てもらったり、ケースによって利用希望者の家や入院先を職員が訪問し、本人や家族との馴染みの関係づくりに努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の得意な利用者に教わりながら、利用者職員で梅干作りをしたり、昔の話を聞いて今の暮らしの参考にするなど、お互いに支えあいながら日々の生活を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞くことで買い物や散歩やドライブの計画を立てて出かけている。現在パチンコへ行きたいという希望があり検討中である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始前、本人と家族、また医療機関など関係機関より聞き取り調査の上、アセスメントを行い介護計画を作成し、利用者個々の短期・長期の介護目標を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々の介護計画を基に、ケアマネージャーが月一回モニタリングを行いフロア会議で検討する。三か月に一度のケアカンファレンスで見直しを行い、家族の同意を得ている。また利用者に変化があったときはその都度見直しを行い家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院支援やケースによっては希望外出の支援も行っている。近隣住民も参加してもらい、認知症サポーター講座も開講した。法人として将来、ショートステイ・デイサービスも実施する予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、かかりつけ医は家族対応で行ってもらっているが、家族対応が不可能な方の通院支援は行っている。提携医と認知症専門医への受診は職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的にホームでターミナルケアは行わない方針であり、重度化した利用者は他の医療施設に移ってもらう旨を利用開始の際、本人・家族と話し合い書面として残してある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事のときも、さりげなく見守りサポートしている。トイレの誘導や風呂の介助も利用者の希望に合わせ、誇りを傷つけない配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペースは、一人ひとりのペースに合わせ急がせることはない。入浴時間は、決まっているが、入る順番や気の合った人と一緒に入浴できる等の配慮をしている。買い物や遠出のドライブも利用者の希望により決定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットにより異なるが、食事の準備・片付けは出来る利用者が積極的におこなっている。利用者、職員は同じ食卓で会話しながら食事をしている。利用者の状態に合わせて刻み食もある。一食ごと職員が盛り付け、味のチェックをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来、また入浴の順番も自由である。入浴の時間帯は、基本的に、14:00から16:00までと決めてはいるが、利用者の希望や体調等により、他の時間帯に入浴することも可能である。浴槽が二つあり気の合った人と一緒に入浴が出来る。また、気分転換として下のデイサービスの大きな風呂での入浴も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、洗濯たたみ、食器あらいなど男性利用者も一緒に行っている。塗り絵、習字、モザイク絵などの作品作り、納涼会などの楽しみごとのイベントも企画されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーでの買い物、ホーム近くの散歩へは、出来るだけ毎日出かけるようにしているほか、年間の外出計画を立てて利用者の希望に合った場所へドライブ外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは建物の二階にあり、一階はデイサービスセンターになっている。二階から一階へは鍵がかかっていなく自由に行き来できるが、玄関は車の往来の激しい道路に面しており施錠してある。	○	利用者が自由に外へ出かけられる様玄関を開放できる工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の消防署の立会いの下、避難訓練を実施している。六月には夜間想定避難訓練を行った。また近隣住民に協力依頼の声かけをし、実施状況は運営推進会議で報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養、カロリーを考えた献立を参考にホームで調理している。食事量、水分摂取量は利用者の状態に合わせてチェックし、バイタルチェック表に記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の共用空間は、広々として明るく、気になる音や臭いもない。リビングには季節に合った作品や植物が飾ってある。リビングには個々に自由にすごせるソファや椅子が置いてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広いフローリングで作り付けの箆箆が設置されている。利用者の好みで飾りつけがされており、使い慣れた家具の持ち込みもされている。		